

JHFREPORT



2013年JHF通常総会を開催しました

6月19日(水)、東京都渋谷区の東京体育館第1会議室において、全国から47正会員(都道府県連盟)の出席(委任状3会員、議決権行使5会員を含む)を得て、2013年通常総会を開催しました。

議題は以下のとおりです。

- ☐ 報告事項1: 2012年度事業報告
- ☐ 報告事項2: 2012年度決算報告・監査報告
- ☐ 決議事項1: 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の

承認

- ☐ 報告事項3: 2013年度事業計画
- ☐ 報告事項4: 2013年度収支予算
- ☐ 決議事項2: JHF 役員の選任

決議事項1が承認され、決議事項2の役員選任は正会員による投票の結果、下記の理事9名と監事2名が選任されました(あいいうえお順)。

☐ 理事

芦川雄一郎(東京都)
内田孝也(東京都)
大沢 豊(茨城県)
鹿山 登(埼玉県)
工藤修二(埼玉県)
塩坂邦雄(静岡県)
殿塚裕紀(茨城県)
福永真也(香川県)
安田英二郎(神奈川県)

☐ 監事

市川 孝(埼玉県)
岩村浩秀(東京都)

なお、議題に入る前に、長年監事を務めてこられた故對馬和也氏に黙祷がささげられました。また、パラグライディング教本基礎技術DVD制作チームの皆さんには感謝状が送られました。

報告及び決議終了のあと、フライヤー人口に占める若年層の拡大、社会におけるハング・パラグライディングの安全面に対する懸念、中高年層フライヤーによる事故などに関して、出席正会員による活発な意見交換が行われ、必要に応じ役員、各委員長、学生連盟代表らへの質疑を交えながら、今後の方向性が議論されました。

(2012年度事業の報告は次ページをご覧ください。)



沖縄県中城モールビーチで。撮影:安次嶺純



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

「フライヤー宣言」に立ち返りフライトを

夏休みにホームエリア以外でのフライトを計画している方は少なくないでしょう。予めエリアルールを確認し安全第一のフライトを。また、管理されたエリア以外で飛ぶにはそれなりの下調べや手続きが必要です。お忘れなく。

JHFの2012年度の事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2012年度事業報告」より

2012年度(2012年4月～2013年3月)もJHFはさまざまな事業に取り組みました。この1年間の連盟活動について報告します。

I 概要

2012年度はJHF各委員会の任期交代があり、多くの委員会で定員を上回る新委員が集まり、旺盛な活動が見られました。

JHFを取り巻く環境を見ると、2012年末の政権交代を機に経済に影響する大きな変化があり、一時の現象にとどまらず今日に至るまで円安基調が続いています。この円安は輸入機材が中心となっているハング・パラの愛好者と輸入供給者には逆風となっております。しかし、これに伴う金融市場の活性化は、久々に国民の消費意欲を刺激しているとされ、2013年度に続くスカイスポーツの集客に期待したいところです。

競技では、2012年度はFAIの大陸選手権開催年度にあたり、パラグライディングと、同アキュラシー 2 種目のアジア選手権大会が行われました。年度の初めに相次いで中国と台湾で行われた両大会では、日本チームが目覚ましい活躍をし多くのメダルを持ち帰りました。全国の皆さまも、ネット経由で刻々と伝わってくるニュースに、連日釘付けになったことと思います。

有効会員数の推移ですが、昨年度には年間登録者数は対前年上向き傾向となり、下げ止まりを予測しました。会費値上げ前の3年登録者の更新が一巡したため、2013年の年初からは有効会員数は現実に下げ止まっています。しかしながら、会員実数が1万人を下回るくらいで底を打つことを期待していましたが、実際は8千人台にまで落ち込んでしまっており、JHFの基礎体力として早期の愛好者獲得が必要とされています。

1.収支の現状

はじめに、長年にわたりJHFの監事を務め、公認会計士の日で公益法人化やその後の法人会計への指導をいただいていた、對馬和也さんがお亡くなりになったご報告をします。2012年12月

4日、ご自宅で虚血性心疾患により突然逝去されました。ここにJHFに対する貢献への感謝と哀悼の意を表します。

2012年度の決算報告は予算では大きな単年度赤字を計画していたものに対し、前年度同様の次期繰越金を計上するものとなりました。予算との乖離をもう少し圧縮できるよう、次年度予算案では配慮をいたしました。JHFの収支は、無駄な支出を避けつつ、必要な事業に的確な支出ができるよう経営しています。フライヤー会員数が横ばいであるうちは、これまで蓄えた資金を有効活用する方向での運営が公益社団法人として求められ、今後3～5年間は財務を健全に維持できる見込みです。

フライヤー会員の第三者賠償責任保険の契約は、ここ3年間でとってきた損害率改善の方策にもかかわらず、大きな損失を抱え保険金支払いによる赤字が継続する状況です。保険会社による保険引き受け拒否は、絶対に引き起こしてはならない事態として、対応しています。このため、今年1月から支払い保険料をこれまでの金額より増加させる措置を取りました。今年度への影響は3ヶ月分ですが、今後年間で保険料支払いは14%増となります。

当面の財務は、上述のように健全に経営されますが、不測の事態に陥らぬよう、事故の撲滅に取り組む必要があります。

2.普及振興事業の実施

- 1) 普及振興の一環として、第1回映像コンテストを実施、30作品の応募がありました。
- 2) 第2回 JHFフォトコンテストを開催、248点の応募がありました。
- 3) JHFパラグライディング教本の教育課程に沿った操作を映像で提供するため、基礎技術DVDを制作しました。
- 4) 教員検定員により、教員・助教員の知識、技能の維持向上を行うことにより、JHFフライヤー会員への安全フライトに関する啓蒙活動を推進するために、教員助教員更新講習会を各地で開催し、10ヶ所で64名が受講しました。
- 5) 教員検定会にて、6名が新しく教員として活躍することになりました。パラグ

ライディング(以下PG)教員5名、ハンググライディング(以下HG)教員1名

3.特記事項

- 1) 第35回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛 7月28日(土)～29日(日) 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 第18回スカイスポーツシンポジウムを協賛 12月8日(土) 日本大学理工学部・駿河台校舎
- 3) 金の星社「のりものしゃしん あいうえおのえほん」の「は」にハンググライダー写真を提供
- 4) NHK Eテレ番組「デザインあ」の「デッサンあ」でハンググライダー実機を提供

II 事項別状況

1.組織

- 1) 会員数
正会員 47名
フライヤー会員 8,641名
(2013年3月末有効登録数)
賛助会員 8名
- 2) 役員構成
理事 7名
(内会長1名、副会長1名)
監事 1名(2013年3月末現在)

2.会議等の開催

- 1) 総会
☐ 2012年6月通常総会
開催通知 2012年4月4日(水)
開催日時 2012年6月18日(月)
11:00～17:00
開催場所 東京体育館第一会議室
(東京都渋谷区千駄ヶ谷)
議案
報告事項1:2011年度事業報告について
報告事項2:2011年度決算報告について
決議事項1:貸借対照表及び損益計算書の承認について
報告事項3:2012年度事業計画について
報告事項4:2012年度収支予算について
決議事項2:JHF役員選任規約の承認について
- 2) 理事会
☐ 第1回理事会
開催日 5月8日
出席:理事5、監事2 欠席:理事2

- 第2回理事会
開催日 7月31日
出席:理事4、監事1
欠席:理事3、監事1
- 第3回理事会
開催日 12月26日
出席:理事6、監事1 欠席:理事1
- 第4回理事会
開催日 3月12日
出席:理事5、監事1 欠席:理事2
- 文書理事会
開催日 7月9日(理事7、監事2による)
開催日 1月15日(理事7、監事1による)
*2012年12月より對馬監事逝去により監事2名から1名に変更
- 3)委員会
- ハンググライディング競技委員会
競技会開催時に実施
- パラグライディング競技委員会
競技会開催時に実施
- 補助動力委員会
11月16日、1月8日
- 教員・スクール事業委員会
7月24日、10月16日、12月4日
- 安全性委員会
6月5日、12月4日、2月19日
- 制度委員会
5月8日
- ハングパラ振興委員会
4月17日、5月15日、6月13日、10月11日、12月4日、2月13日、3月25日
- 役員選任実行委員会
12月4日、2月13日
- 委員長理事合同会議
2月26日
- *上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3.事業の実施状況

- 1)普及振興活動
- JHFレポートを発行(4月、7月、10月、1月)*独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。
- 都道府県連盟事業費の交付
- 日本学生フライヤー連盟へ助成金交付
- 2)フライヤー会員登録
2012年度登録 6,146人(新規・更新)(2011年度 5,579人)
- 3)技能証発行
- HG:157枚(2011年度211枚)
- PG:1,029枚(2011年度1,128枚)
- MPG:25枚(2011年度54枚)
- レスキューリバック認定証:42枚

- 4)競技会の主催・公認・後援
- HG:14件(うちFAIカテゴリー1・2:2件)
- PG:33件(内FAIカテゴリー1・2:3件、体験会3件)
- HG・PG同時開催:5件
- 5)競技会の開催
- HG:
- ・日本選手権
2012年4月28日～5月2日
山形県南陽市
参加40人(うち女子7人) 不成立
- ・ハンググライディングシリーズ
有成績者数82名 第1位:大門浩二
- ・ハンググライディングXCリーグ
有成績者数1名 第1位:太田昇吾
- PG:
- ・日本選手権
2012年10月4日～8日
富山県南砺市つくばねエリア
参加72名(うち女子13名)
日本選手権者:森山政男
女子日本選手権者:中目みどり
- ・アキュラシー日本選手権
2012年4月14日～15日
栃木県那須烏山エリア
参加29名(うち女子6名)
日本選手権者:岡芳樹
女子日本選手権:雨宮有子
- ・ジャパンリーグ(参加人数101名)
オープンクラス 1位:成山基義
女子1位:中目みどり
スポーツクラス 1位:上山太郎
女子1位:中目みどり
- ・ジャパン2リーグ(参加人数30名)
総合 1位:高田征広
女子 1位:高橋美佳
- ・クロスカントリーリーグ(90本)
1位:竹内俊二
最長フライト:武貞伸明(128.6km)
- ・アキュラシージャパンリーグ
(参加人数35名)
スクラッチクラス 1位:岡芳樹
女子1位:東武瑞穂
ハンディキャップクラス 1位:吉富周助
女子1位:矢野佐知江
ルーキークラス 1位:矢野啓
女子1位:矢野佐知江
- 6)スクール・エリア情報の収集及び公開
- スクールサイト登録校:145件
(うち新規登録校10件)
- エリア情報掲載:176件
- 7)海外関係団体活動
- CIVL総会
2013年2月14日～17日 スイス

- 出席者:岡芳樹(デレゲイト)
- ヨーロッパ関連団体との交流
2012年5月14日～18日
- 8)世界選手権へのチーム派遣
- 第19回ハンググライディング世界選手権
参加選手:8名
2013年1月5日～18日
オーストラリア、フォーブス
- 9)その他
- 機体型式登録:12件(PG)
- 機体情報登録:14件(PG)
- スカイレジャー航空無線機貸出:延27件1,499台 デジタル無線機107台
- AED貸出:9件
- ポロジメーター貸出:2件
- フライヤーのための傷害保険「JHF総合保障制度」加入者数:827名
*6月19日のJHF通常総会で正会員に報告された原文は、JHFウェブサイトに掲載しています。



6月19日の通常総会で昨年度事業が報告された。

木崎湖でSIVトレーニング

2012年度と同様に今年度も長野県木崎湖においてJHFのSIVトレーニングを行います。

報告されたパラグライダーの事故で多いのは、キャノピーの潰れに起因するものです。その潰れによるグライダーの挙動を知ること、理解すること、そして潰れによる事故を防ぐことが、SIVトレーニングの目的です。

実際のフライト時にキャノピーが潰れても冷静に対処できるよう、基本のピッチングとローリングをはじめ、ビッグイヤー、ストール、フロントコラップスなどによる機体の挙動を体験します。

SIVトレーニングで潰れのメカニズムを頭と体で理解して、潰れ回避／潰れからの回復に役立ててください。9月6日～8日の一般クラストレーニングの詳細はJHFウェブサイトでご案内します。

新理事・監事から

就任にあたって

6月19日の2013年通常総会で、正会員の投票によって新役員が選任されました。理事9名と監事2名は、2015年の任期満了（通常総会開催日）までJHFの中枢として活動します。就任にあたり各人の抱負を聞きました。

（7月12日の理事会で会長・副会長等を互選の予定）

理 事



芦川雄一郎（東京都）

2011年より振興委員会の委員長を拝命し活動してまいりましたが、未だフライヤー人口の純増に至っていない状況です。高齢化が進むフライヤーが、安全に飛び続けられるための環境維持と、飛ぶことを卒業された元フライヤーにも情報発信していける環境づくりと、若年層へのスカイスportsの普及振興に努めてまいります。

フライヤー目線からばかりでなく、常に一般社会人としての目線と感性を忘れずに、安全なフライトとスカイスportsの普及振興のお手伝いをしたいと思います。具体的には、危機感を持って自主的に活動されているハング普及委員会の活動にパラを含めた拡充を行ない、連盟の委員会活動として、新規フライヤーの増加とスカイスportsファンの増加を考えています。



内田孝也（東京都）

理事7年目に入りました。我々の施策に対して、期待できる効果が予測できるようになり、逆に、執行部としての取り組み判断がマンネリ化してきていないか心配でした。しかし、通常総会で顔を合わせた皆さんからは、おおいに頑張るようという声をいただきました。

改めてハングパラ統括団体としての方向性に確信をもち、新たに増員となった理事各位と仕事を進めてまいります。財務の健全性の次は、安全と普及を追求します。



大沢 豊（茨城県）

PG, HG競技の安全、公平な運営ができるように努力します。

デジタル無線機への転換推進、安全性の向上、フライヤーの増加、会員管理システムの整備、財政の適正化のさらなる改善など、私なりにJHFをより良くするために微力ながらお力添えしていきたいと思っています。



鹿山 登（埼玉県）

連盟全体の目標や活動等を通し理解していく中で、少しでも貢献できるよう、努力していきたいと思っています。47都道府県の各連盟全体の活動が少しでも良い方向に向かうよう、活動し努力していきたいと思っています。

いま私は、教育関係の職についていて、話をする機会がありますので、スカイスportsの理解と普及に貢献できるよう活動していきたいと思っています。

これからは特に、連盟のために心を込めて、活動していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



工藤修二（埼玉県）

理事3期目も以下について努力していきたいと思っています。

1. フライヤーの増加

フライヤーの増加に寄与する一番のポイントは安全第一だということをいろいろな方々から教えられ、また実感しました。基本に戻って指導育成に力点を置き活動していきます。

2. フライヤーの声を吸い上げる

今後も継続して各地に赴きフライヤーの声を吸い上げていきますのでよろしくお願いいたします。

3. フライヤーのための提案

JHF本来のフライヤーの立場に立ったフライヤーのための提案を続け、JHFの組織活動に貢献していきます。



塩坂邦雄（静岡県）

「立候補意思表明書」に記載したように、JHF定款の目的にある「パラ・ハングの普及及び振興に関する事項」を具現化します。

1. フライヤーの人口の増加：Aコース10%増を目標にします。

2. JHFの組織・運営に関して広く情報を集積し、地域ごとの問題点を整理し解決策を検討する。

3. 地域振興のためパラ・ハングを利用して町おこしを行い、開発モデルを作成する。

皆様のお力をいただき、空という無限の可能性に挑戦したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



殿塚裕紀（茨城県）

スカイスportsは夢を叶えることができる素晴らしいものです。この業界に入って13年、いくつかのパラグライダースクールを渡り歩き、良いところも悪いところも沢山見てきました。課題は沢山ありますが、少しずつでも解決していけばスカイスportsの可能性はまだまだ広がるものと信じております。

今年は理事としてまず何か一つ成果を上げたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



福永真也（香川県）

フライト歴19年、まもなく20年を無事迎えることができます。安全にここまでフライトが続けられる感謝と御恩返しと考え、理事を務めさせていただきたいと思っています。

初フライトした時の緊張と喜びを一人でも多くの方に伝えるべく連盟の活動を盛り上げて行きたいと考えますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



安田英二郎(神奈川県)

今年の総会では、正会員から安全に対する高い関心と学生に対する手厚い支援が要請されました。

多くの事故はフライヤーの不注意から発生しています。不注意をしないという注意喚起だけでなく、不注意を招く様な状況の調査も進めていきたいと思えます。また、学生フライヤーは宝です。学生に対する支援を強化して人口増を図ると同時に、大学卒業に伴って多くが引退してしまう現状を改善するため、学生と全国のエリア・スクールとの橋渡しができないかと考えています。



市川 孝(埼玉県)

監事に引き続き選任されました。

現在のJHFは、決算書類等を見ると順調に推移していると言えます。「公益社団法人」として、主務官庁への報告書類の提出などは、大変厳格なものが求められていますので、こうした作業に協力していきます。

また、事業については、理事会に出席して、JHFの定款に規定されている連盟の目的を達成する事業を適切に行っているのか、さらに、諸規定に違反し

た行為が行われていないかチェックしていきます。



岩村浩秀(東京都)

総会では皆さん長時間お疲れ様でした。議論をお聞きて、現在のハング・パラを取巻く問題の一端が少し理解できました。

監事としての職制上、あまり政策的な議論に加担することはありませんが法令上の問題や会計については専門家として精一杯頑張っていく所存です。これから宜しく願いいたします。

JHFの動き

歴史編纂事業を計画中

ハング・パラ資料の保存を

ハンググライディング・パラグライディングが日本に入ってから数十年が経ちます。空を飛ぶ歴史を作ってきた先駆者たちは高齢化し、貴重な資料が失われつつある今、日本のハング、パラ発展の記録を保存することはJHFの任務です。

そこで、JHFでは「日本におけるハング、パラの歴史編纂事業」を計画しています。ハング、パラの雑誌、全国に存在したエリア、スクール、クラブ等の写真、会報、会員名簿、活動記録、広告、使用されていたグライダー等機材の写っている写真やカタログなど、全てが貴重な記録です。これらをお持ちの方、ぜひ、JHFにご提供／お貸しください。

資料収集の具体的な方法については後日JHFウェブサイトやJHFレポートでお知らせします。JHFの受け入れ準備が整うまで、現在、手元にある資料は廃棄されないようにお願いします。また、古い写真や紙資料などについては、これ以上の劣化を防ぐために、デジタル化(PDFファイル化)による早期保存が可能ならご検討ください。

カレンダー・WEB用の

写真を募集しています

2014年JHFカレンダーに使用するために、ハンググライダー、パラグライダーを中心にした季節感のある写真や楽し

い写真を募集します。

応募していただいた作品の中から、カレンダーの表紙と1月から12月までの各月分の合計13作品を採用して来年のカレンダーに使用する予定です。カレンダーは一般に販売するほか新聞社や他のスポーツ団体、行政機関等にも配布しているものです。ぜひご協力をお願いします。

また、JHFウェブサイトにはハンググライダー、パラグライダーの画像を自由にダウンロードして普及等に活用していただくコーナーを作ります。カレンダーだけでなく、こちらにも作品をご提供いただける場合は、まずJHF事務局にお知らせください。

写真募集についての詳細は、JHFウェブサイトをご覧ください。

世界選手権出場の

日本チームにご声援を

2013年は世界選手権イヤーです。オーストラリアで1月5日から18日まで開催された第19回FAIハンググライディングクラス1世界選手権は、オーストリアのマンフレット・ルーマーが四度目の優勝。団体ではイタリアが世界一に。日本チームは前回の4位より上を目指しましたが、11位でした。

この夏は下記の世界選手権に日本代表チームが参加します。JHF競技リーグで活躍し世界選手権行きの切符を

手にした選手たちに、厚いご声援を!
◇第13回FAIパラグライディング世界選手権

7月13日～27日 ブルガリア ソボト
日本代表チーム
呉本圭樹 上山太郎 成山基義
伊藤弥生 中川喜昭
平本啓子(追加派遣選手)
チームリーダー 岡 芳樹

◇第7回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権

8月17日～25日 ボスニアヘルツェゴビナ サラエボ
日本代表チーム
岡 芳樹 横井清順 古賀光晴
吉富周助 古田岳史 伊藤まり子
内田 薫

三つの日本選手権を

開催します

下記の日本選手権を開催し、それぞれの日本選手権者を決定します。

◇2013ハンググライディング日本選手権 in池田山

8月14日(水)～18日(日)

◇2013パラグライディングアキュラシー日本選手権 in南陽

9月28日(土)～29日(日)

◇2013パラグライディング日本選手権 in足尾(予定)

9月20日(金)～23日(月)

今年も暑い夏が始まりました。日本各地のフライトエリアで盛んにフライト活動が行われる時期です。パイロットの皆様は普段からフライト活動の安全確保に万全の注意を払われていることと思いますが、まず夏に特有の注意点を確認したいと思います。そのうえでさらに、成熟してきた日本のスカイスports愛好者にとって、より安全なフライトのために重要と思われる要素についても考えてみます。

暑さの影響

暑さによる注意力の低下に注意してください。カラビナや足ベルトのつけ忘れ、風の読み違いや一瞬の反応の遅れなど、飛行準備や判断のミスは、重大事故に直結します。特にちょっとしたトラブルなどによって炎天下で余計に動いた場合、体力が簡単に消耗し、注意力が大きく低下してしまうことに注意してください。暑さに対して今まで以上に警戒し、暑さ対策や炎天下を避けた休息に留意しましょう。

もちろん熱中症にも注意が必要。近年は熱中症の危険性について多くの警告が発せられるようになりました。熱中症になりかけても本人はまず気付かないことと、熱中症は最悪の場合は死に至るものであることを忘れないでください。熱中症対策として、紫外線除けの帽子やサングラス、汗を吸い取って早く乾く機能下着、汗拭き、飲料水などを準備し、汗をかいたらこまめに水分補給と塩分補給を行いましょう。また、木陰など、日射を避けた風通しの良い涼しい休息場所を見つけておきましょう。普段から栄養のある食事と休養を欠かさず、体力維持に努めることも大切です。

以上、暑さに対して、計画的な準備と油断ない警戒が重要です。予想最高気温など気象情報のチェックも必須です。さらに、パイロットの体調管理や年齢による基礎体力の違いにも注意してください。

気象条件の激しさ

夏と言えば入道雲、つまり積乱雲。それまで順調だった飛行条件が、急激な積乱雲の発達によって、吸い上げや突風など大変危険な状態になることがあります。特に夏の山岳エリアでは積乱雲が発生しやすいので、フライトする前

に必ず最新の気象情報をチェックするとともに、日中の活動中は常に空の変化に注意しましょう。

たとえば、山岳エリアでは山頂の裏側で発達中の白く輝く雲が顔を出して来たら短時間のうちに空の一角を覆うかもしれません。朝のうちから早くも山並みの上に積雲がポツポツ並ぶ日は、午前中から良好なサーマル条件が楽しめる代わりに、お昼頃から急速に危険な積乱雲に発達する可能性があります。特に朝の積雲が小さくても縦長の塔のような形を含んでいるときは要注意です。

大切なのは、気象条件の異変を感じてからでは危険を回避するには遅いので、雲がどんどん増えてくるなどの兆候を感じたら、空振りに終わったとしても勇気をもって早めに飛行を終えることです。吸い上げからの脱出方法や強風下の着陸技術など駆使しても、いったん悪化した気象条件の前には十分な安全を保障してはくれません。全員の飛行が確実に完了する前に急速に条件が悪化してしまう可能性があるからです。運が悪いとどんなに素晴らしい着陸技術のパイロットでも最悪の結果が待っています。そしてそれは防ぎ得た事故なのです。

風の急変などの異変が始まる前に飛行を終わらせていることこそが重要です。そのうえで、地上でも落雷の危険性や豪雨・突風による被害があることに留意して、早めの退避行動を忘れないでください。

吸い上げ

発達した積雲や積乱雲による吸い上げの危険性は全てのパイロットの知るところでしょう。残念ながら、どんな降下手段を駆使しても、紙一重で強い吸い上げ条件に入ってしまうと自然の底力の前には重大な結果が起こり得ます。先に述べたとおり、早めの警戒、早めの退避行動が大切なのですが、問題は吸い上げに気付きにくいということです。

サーマル相手に苦勞してやっと安定したしっかりした上昇になったと思ったら、実はもう雲底が近く、センタリングをやめてもかえってバリオが強く鳴り続ける、さて、どうしようもない、という事例です。ですから、安定した強い上昇に入っ

たと感じたら今度は直上の雲の様子にも注意することを忘れないでください。

空気密度

春の乱気流ほどではないですが、高温となる夏の日中には空気密度低下によってグライダーの低速特性がスカスカな感じに劣化し、さらに風も障害物などの要素によって乱れやすくなり、離着陸が難しくなります。特に着陸では着陸速度の維持とフレアタイミングに注意してください。夏に行くことの多い高原など1,000m以上の標高の高い地点での離着陸も同様に、空気密度低下による離着陸の難しさが発生するので注意してください。

また、空気密度の薄さと同様に、夏は草の伸びたランディング場に注意しましょう。伸びた草に足を取られたり地表との微妙な高さや障害物がわからなかったりということがあります。特に地面効果の大きく出るハンググライダーでは、地面効果が損なわれてフレアタイミングに影響します。頻繁に草刈整備されているエリア環境なら問題ありませんが、夏草の伸びるのは早く、エリア管理としても悩ましいところです。

さて、夏の高い気温や気象条件の傾向に伴う注意点だけでなく、この機会に現在のフライト活動で事故を防ぐために特に注目される要素にも注意してみましょう。

年齢問題

暑さによる体力消耗・注意力低下の度合いは年齢とともに確実に増大します。そして年齢による肉体的能力の低下は、暑さの影響に限りません。ただ個人差は大きく、そのときの体調によっても異なります。また、年齢が高いといっても多くの経験がある場合には肉体的能力の低下をいろいろな点で補える例もあるでしょう。

しかし、成熟してきた日本のスカイスportsにおいて年齢の高いパイロットが占める割合は高く、事故実績の概観からも年齢はパイロットの自己管理上の重大な注意点となってきました。謙虚に、客観的に年齢・身体条件によるパフォーマンスの低下とそのリスク、万が一の事故による影響を自覚し、対応していくことが必要です。そしてパイロット個人だ

けでなく、監督インストラクター・エリア管理者・同伴するパイロットも危機意識をもって注意しなければならない点です。

5年前、10年前は問題なくフライトしていたとしても、客観的にチェック・リハビリ・ブラッシュアップあるいはダウングレードするシステムを検討すべき時期に来ているのかもしれません。

リスク管理

日本でハンググライディングやパラグライディングが始まった頃に比べれば、機材の性能・安全性は大きく向上し、パイロットの技量レベルも高まっていると言えます。その間に多くの重大事故を経験して教訓を得て、安全確保や気象に関する知識、そしてその情報技術も大きく

発展したと思います。しかし重大事故はいまだに発生しています。しかもその事故様態は旧態依然としたもので、決して新奇なものではなく、せっかくの教訓が十分に生かされているとは言えません。

さらに日本社会の変化もあります。現在よりも冒険行為に寛容だった20年前、30年前と異なり、空を飛ぶという価値よりもスカイスポーツ事故の結果に対して容赦ない目が注がれます。

そこで、「スカイスポーツという価値ある行為にリスクはつきものである」という態度（フライトの誘惑に対してリスクを軽視してしまう）ではなく、「考えられる限り安全性を100%確保する」という態度が重要になってきます。99%では駄

目なのです。

以前はもっと不確かだったリスク評価・安全確保技術は、現在ではより確実なものになっているはずです。その中で忠実に安全確保を行うことが、避けなければならない事故を防ぎ、個人の安全とフライト環境の維持にとって大変重要なのです。

「知っていた、わかっていたのだが……でも事故が起きてしまった」ということのないよう、たとえば気象情報の収集と評価、機材の安全チェック、パイロットの自己管理、飛行技量の練磨、飛行判断について最新のレベルを保てるよう、全てのパイロットが努力するという意識が、スカイスポーツの維持と発展に不可欠です。

電線を見つける／避ける

電線に接触する、ひっかかるという事故がなくなります。このような事故を防ぐには、まず電線の存在を知ること、そして不用意に近づく事態を招かないことです。

飛行中に電線は見えない

地上から空を背景とした電線を見上げる場合と異なり、空中から地表を背景とした電線を視認することは困難です。熟練したパイロットにとっては常識でしょうが、「フライト中は電線は見えない」と考えておくべきです。

万が一、電線に接触した場合、感電の恐れのほか、高所に引っかかり、さらにそこから落下する危険性があります。運良く感電せずに引っかかったままどうしても、救援には専門家の出動が必要で、また電線接触にともなう送電停止によって多大の社会的影響や多額の補償が発生してしまう可能性があります。

柱があれば電線がある

では、どうすれば電線を見つけ、事前に接触を避けることができるのでしょうか？

電線を見つけるには、まず電信柱や高压鉄塔を見つけることです。

これは空中からでもしっかり視認することができます。そして電信柱や高压鉄塔が並んでいる間には必ず電線があるはずだ、と考えればよいのです。これで見えなかったものも特定することができます。

ます。

もちろん指定ランディング場付近をはじめフライトエリア内であれば、あらかじめ地上からと地図上でその存在を確認しておくべきです。なお、大きな川の上や谷間に電線が張られている場合、こういった電信柱や高压鉄塔を見落してしまうことがあるので注意してください。

電線に近づかない

さあ、これで視認困難な電線を見つけることができました。しかし接触の危険性はまだまだあるのです。だいたいその辺にあると分かっているのに電線に接触してしまう事故がほとんどだからです。なぜでしょうか？

ひとつは風の影響や機体の操作の問題で、ランディング場の周辺で高度処理を誤り、高さの低い電信柱（電力柱・共用柱）に接触してしまう場合です。林や並木などに対してもそうですが、着陸パターンの最後の方でこういった高さのある障害物に近づかないで済むように高度処理を計画・判断することが大切です。

風下から電線越えのファイナルグライドなどは論外ですが、ファイナルターンがこれらの障害物の真上や近くを通るコースどりは、ほんの少し高度が予測よりも低くなったり風に流されたりするだけで、高所での障害物接触事故という危険に直結します。普段の機体操作・風の読みに自信があっても、こういった高

いリスクに直結する障害物から避けるコースどりをまず心がけてください。

次に、高压鉄塔間の高压送電線の場合、地表の対象物から離れた空中に存在するために、いよいよ送電線に近づいてしまった場合に空間での距離や位置が思いのほか把握しにくく、数十m程度の間隔を保つつもりでは、かなり危険である、ということがあります。ちなみに高压鉄塔は低いもので30m、高いもので100m強の高さがあります。接触を防ぐ安全距離としてはこの鉄塔の高さくらいではギリギリで、その2倍以上ほしいところです。

また、高压鉄塔間で送電線がたわんでいることをあてにして鉄塔から離れたところで送電線の上を通過する場合（そもそもそんなに切迫した事態にあることが間違いなのですが）、近くからでも見えにくい送電線に対してなおさら距離感覚があてになりません。

なお、送電線の一番上、鉄塔の最頂部間にはアース線が張られており、これは危険なほど近づいても空中ではまず見えません。

6月8日に新潟県魚沼市で起きたパラグライダーの送電線宙吊り事故に関して、6月25日、東北電力株式会社の方3名がJHF事務局に「送・配電線への接近・接触事故防止について」のお願いに来局されました。（事務局より）





この5月、ドイツ、イタリアで主にトーイングとSIV（飛行中のアクシデントのシミュレーション）に関する情報を収集してきました。

ドイツのトーイング

5月13日、DHV（ドイツハンググライディング協会）トーイング最高顧問であるBarthelmes氏と会談。長年、トーイングに携わり、教育・事故分析などの情報を詳しく教えていただくことができました。

DHVトーイング教習システムの、指導者側に教えるカリキュラムを約4時間にわたり熱心に説明してくださいました。本当は数日かけて教えてもらう内容ではあるものの、大切な部分を抜粋し丁寧に教えてもらったので分かりやすく理解できました。

日本でもトーイングシステムを利用した講習を行っている所があり、また、増加しています。事故が起きてからでは遅く、今から海外情報も入手し、日本の仕様に合わせて、安全策などをまとめ上げたいと考えています。

パラグライダーのトーイングの事故は、ストールによるものがほとんどです。これを回避するには、パイロット側とウインチマン側への教育を徹底すること。リリースにおける問題は少なく、パラではロックアウトによる事故はドイツでは無いそうです。また、ハンググライダーでは、ロックアウトの事故が多いことが問題になっています。



Barthelmes氏。

PGアカデミー社のChris氏。



DHV事務局長Klaus Tanzler氏（左）、安全教育顧問Karl Slezak氏と。

ドイツ国内でのトーイングエリアは約240ヶ所あり、豊富な実績と環境があることがわかります。

ウインチユニットに関してはLTF認証されないと販売することはできず、使うこともできません。また、ドイツでは今年からの新たなシステムとしてステップトーイングも許可がおりたということです。これに関してもそれなりのリスクがあり、広大な敷地が必要不可欠とされています。

現在のドイツでのトーイングシステムでは、ウインチマンとスターターと2名で行うことが基本となっていますが、最新システムは1名で行えるものが出てきています。これはまだテスト段階ですが、訪問してきたので、別記でレポートします。

◇DHVのトーイングライセンスの種類

- 1) パラグライダートーイングパイロット認定証
- 2) ハンググライダートーイングパイロット認定証
- 3) ウインチマン認定証

ドイツの現況

5月14日はDHV事務局を訪問。昨年同様、事務局長Klaus Tanzler氏、安全教育顧問Karl Slezak氏と会談し、トーイング、SIV、電動モーター、事故、新たなことをテーマに情報収集しました。

トーイングに関しての情報を知りたく、まず日本の現状を伝え、動画を見たいということでお見せしました。ハングのスクールトーシステム（地上にワイヤーを2列に張り翼の傾きが抑制されるシステム）はドイツではないシステムでもあり興味を持っていました。

ムでもあり興味を持っていました。

ドイツでのトーイングは、ハングは1983年頃から、パラは1988年頃からは行っているそうです。ライセンス取得者数は、DHV全会員約36,000人のうち約1/3（約12,000人程度）はトーイングライセンスを持っているとのこと。その内、トーイングのみのライセンスは1%程度（120名）というので、ほとんどは山飛びされる人が付属としてトーイングのライセンスを持っていることになります。

SIVに関しては、EN認定機関の一家でもあるパラグライディングアカデミー社を紹介していただきました。2年前のSIVによる死亡事故により、安全基準に関しては指導者側、スクール共に厳しくなっています。

電動モーターに関しては、ハンググライダーの電動ユニットは昨年より認可が下りています。パラの電動ユニットは現在も認可が下りておらず、ピッチ、ロール等の機体の動きに合わせてモーターユニットを制御させる安全ユニットの開発が遅れていることが原因だそうです。

死亡事故に関しては、2011年13名、2012年12名ということでした。事故原因は各々違うそうですが、気象条件の悪化による事故が少し目立つと言っていました。また、ポッドハーネスによるレッグベルト付け忘れによる脱落死亡事故が2010年、2011年の2年間で6件（ヨーロッパ全体）発生したということです。そのため、メーカーもポッドハーネスの改良に取り組み、DHVでも注意喚起を行っています。日本でも利用されてい



ガルダ湖畔のSIVランディング場。

るフライヤーは多く、ポッドでのレッグベルトのチェックは難しいタイプがあるので、確実に固定されていることを確認して安全にフライトしていただきたいと思っています。

◇DHVのXC教育DVD発売情報

XCのベーシックから山岳、フラットランドまでGoogle earthを利用して細かく分かりやすく解説。サマルのトレーニングをされている人も十分イメージは湧くと思います。映像もきれいで、DVDとブルーレイと2種類あります。ドイツ語ではありますが、映像を見るだけで自分も飛んだ気になる学習には優れたものです。ハング、パラグライダーと両方がしっかりと組み合わせられています。

SIV

5月15日・16日は、イタリアガルダ湖畔近郊に、パラグライディングアカデミー社の代表であるChris氏を訪問しました。

パラグライディングアカデミー社はEN認定ができる一社でもあり、SIVでは年間約250名のトレーニング指導を行っています。日本で行っているSIVの内容を一つ一つ細かく照らし合わせて、豊富な実績のあるパラグライディングアカデミー社の指導、また新たな指導方法も教えていただきました。ここで得た情報は今年のSIVコースでも伝えていきたいと考えています。

◇JHFの長野県木崎湖SIVコース

インストラクタークラス(助教員・教員対象)7月30日～8月1日、一般クラス9月6日～8日に開催します。指導者は安全性委員:目黒、伊尾木

◇SIVに関するDVD情報

・『Performance DVD』

パラグライディングアカデミー社のSIV受講者向けに最低限必要なことを分かりやすく作られたDVDです。ドイツ語ですが映像を見れば十分理解できます。映像出力がPAL方式なので、NTSC自動変換機能がついていないと見られませんが(参考までに最近の低価格プレイヤーにもこの機能はついています)。

・『Security in Flight』

Jocky Sanderson氏がメインにあらゆるSIVマヌーバーを映像に記録、今までにないカットをされています。また、ツイスト時の対策、クラバット時の対策なども盛り込まれ、2枚組DVDの1枚はエマージェンシーをテーマとし、エアーターコイズチームのEN認定テスト時の様子が



Wolfgang Hogen氏とトーイングマシン。

しっかりと収録されています。小冊子のSafety Manualも付属し解説は英語で、映像出力はNTSC形式になっています。

新しいトーイング教習システム

5月17日・18日は、ドイツFussen郊外の小型機滑走路があるエリアにWolfgang Hogen氏を訪問。Hogen氏は、DHVトーイング最高顧問Barthelmes氏の紹介で、最新のシステムをテストしているということでお会いしました。彼が、一人でトーイング教習ができるシステムを作った第一人者でもあり、このシステムが今後広がっていくと思われます。

Hogen氏からは実際のスクールにおける指導内容と現状に関して詳しく教えていただくことができました。彼は1998年からトーイングスクールを行っており、1997年からはセールプレーン(グライダー)のウインチマンもしていて、指導力の高い方だという印象を受けました。講習生は朝の5時～6時には集まり、風の穏やかな時にトーイング教習を行っています。

今回、Barthelmes氏とHogen氏から得た情報は、今後の日本でのトーイングシステムに役立てられるようにしていきたいと思っています。ハンググライダー、パラグライダー共に安全性を高め、フライヤー増加につながる新たな取り組みとして考えています。

今年はParaglider Manufacturers Association (PMA:パラグライダーの工業会のような団体)の会長を務

めるHans Bausenwein氏とは、お会いできませんでした。メールで情報をいただきました。

現在、競技に参加するパイロットが競技用グライダーを使っているSIVトレーニングを行うことをCIVLは奨励していますが、義務化はしていません。その理由に、SIVのできる環境がない国が多くあることが挙げられます。PMAは、FAIカテゴリー1へ参加する全パイロットにSIVを義務づけるべきだと考えています。ヨーロッパ大会で起きた2事故(幸い大事には至りませんでした)は、パラシュートを投げる練習をするという簡単なSIVトレーニングをしていれば防げたものでした。

PMAは現在、競技用クラスグライダーの新しい(実現可能な)コンセプト作りを行っており、場合によっては競技用グライダーの新しいEN-926/3規格ができるかもしれません。この規格の目的は、EN-926/1(負荷テスト)とEN-926/2(飛行テスト)に比べ、テスト手順を迅速なものにすることです(もちろん安全面のテストは抜け目なく行う必要があります)。これにより、テストの時間とコストが削減でき、経済的に以下が可能になります。

◇様々なサイズのグライダーをテストすること

◇小さいメーカーにも、新しいアイディアのグライダーを大会で披露するチャンスを与えること

このために、メーカーと試験所の専門家によるミーティングが8月に予定されています。

岩崎拓夫が160km飛行に成功！ XCリーグにようこそ！

今年のJHFパラグライディングクロス
カントリー（XC）リーグは白熱の競り合
いが展開中です。

5月25日現在、2013年リーグのトップ
に立つ加藤豪は1月～4月の6フライト
、合計447.5kmを申請、そのうち
100km超が3本、最長は135.8km。続
く岩崎拓夫は2月～5月の5フライト、
合計399.9kmを申請、うち2本が
100km超、最長160.2km（現在2013年

リーグ最長 岡山県北房エリア→兵庫
県篠山市）。さらに、二三四藤昭
137.7km、川地正孝108.2km、成山基義
159.9km、竹内俊二149.0km、高田征
広118.9kmと、100km超フライトが出て
います。

パラグライディングXCリーグは、JHF
のウェブサイト、競技委員会のページか
ら参加（XCフライト申請）できます。競
技会に出る時間がないパイロットも、XC

リーグなら自分の都合を優先できる（実
際は何よりも気象の都合ですが……）
ので、クロスカントリー技能証をお持ちで
腕に自信のある方は、お気軽にご参加
ください。

フライト申請方法や成績は、上記のパ
ラグライディング競技委員会のウェブペ
ージをご覧ください。

「でも、リーグに参加しなくてもクロカ
ンできるし……」ですか？ では、加藤・
岩崎両パイロットの声を聞いていただき
ましょう。

加藤 豪 ▶ 西日本から記録更新を

今年も去年に続き西日本のエリアか
らクロスカントリーフライトで日本国内記
録の更新を目指し、岡山県の大佐エリ
アや北房エリアからチャレンジしていま
す。2年目ということもあり、フライトコ
ース上の地形にも慣れ、風の流れ、サー
マルポイントもいろいろ分かってきまし
た。そして今年はずっと西からクロスカ
ントリーを狙おうと広島の新ノ倉エリア
にも飛びに行きました。新ノ倉のエリアは
初めてでしたが、管理人や地元のフラ
イヤーの方々にとても親切にしてくだ
さりました。おかげさまで大佐エリアや北
房エリアの10km手前まで飛ぶことがで
きました。

今シーズンは去年よりもサーマルコン
ディションがよく、3月に入ってすぐに
北房エリアから119km飛べました。4
月になってからもコンディションがよく寒
気の影響で、去年は悩まされた逆転層
がある日が少なく、広範囲にコンバー
ジェンスラインができ、101km、135kmと記
録を出すことができました。特に印象に
残っているフライトは北房エリアから福
知山市まで135km飛んだことです。福
知山市は僕が普段飛んでいる岩屋山
エリアのすぐ横にある町です。クロスカ



岡山県北房エリアからテイクオフする加藤豪。



今日のフライトを分析しつつ回収車を待つ加藤。



コースを検討しながらラインチェックする岩崎拓夫。

ントリーフライトをして順調に距離を延ばしているとだんだんと見慣れた景色が見えてきて、いつも飛んでいるエリアの横を通り過ぎる、当たり前のことですがとても不思議な感じがしました。

そんな今年のいいコンディションの中、岩崎拓夫さんがやってくれました。ゴールデンウィークの5月5日に、北房エリアから兵庫県の篠山市まで160kmを飛び、念願であった西日本から日本国内記録更新をしてくれました。彼とはまだ雪が残る2月下旬頃からNCおおさパラグライダーズスクールの雪上校長にエリアのコンディションをお聞きしながら、何度も気象条件のいい日を狙って一緒に飛びました。彼が記録を出せたのは時間の問題だったと思います。

2013年前半が終了して、日本国内記録を狙える春のシーズンが終わってしまったかもしれませんが、後半での僕の目標は、AIR CROSSの竹内俊二さんがもつ歴代クロスカントリーリーグ1位の記録更新です。後半でどれだけ距離を延ばせるか分かりませんが可能な限りチャレンジしてみようと思います。

岩崎拓夫 ▶ 本当に最高!

5月5日、快晴で風も弱く最高のクロカン日和。稀にみる好条件が重なり160.2kmのフライトで国内記録を更新することができました。北房エリアから、中国山地をダイレクトに通過し篠山の東までのフライト。雲底2500mのコンバージェンスラインに乗って夢のような時間を過ごせました。「おめでとう、やったー」と回収車の盛り上がりが今でも思い出されます。



広島県神の倉エリアから記録を狙ってテイクオフする岩崎。

圧倒的な力を見せ付けられた去年のクロカン。つわものがたくさんいました。頭上を越えていかれたことが何度もあり、ただ自分の無力さをかみしめて立っていました。「悔しい」その気持ちが、クロカン記録(リーグ)にチャレンジするきっかけでした。

初めに、出来るだけ複数機でのクロカンをすることを目標にしました。それまで、私は単独飛行でのクロカンが多かったのです。もちろんそれも大事ですが、加藤豪さんをはじめとする強豪とフライトすることで、新たなイメージが沸いたり、よりサーマルソアリングが明確になったりと、「協力することで生まれるフライト」ができました。これは一人で飛ぶだけでは決して得ることのできない経験だったと思います。

次に、フライトプランを立て、様々なコンディションを想定しながらのイメージトレーニング。その中でも、ハンググライダーのフライトログは大変参考になり、フライトルート開拓に繋がりました。



加藤(右)と岩崎。岡山県新見市で。

そして、「行かずに後悔するより行って後悔しろ」そんな思いをもって、数多くチャレンジしました。北房、大佐、神の倉と中国地方を飛びまわりました。

こんなに早くチャンスをつかめて、本当に最高です。かおりリーダー。いつも応援してくれた松坂さん。共に飛んだみんな。サポートしてくれたみなさん。本当にありがとうございました。

最後に、北房エリアのポテンシャルはまだあります。来年は、200kmを目指したい。

(撮影：写真5点とも加藤文博)

県連だより

■PGタンデム大会を開催

神奈川県 ハング・パラグライディング連盟 (KHPF) より

PGタンデム証普及のため、神奈川県 ハング・パラグライディング連盟創立21周年記念、小学生・女性がパッセンジャーの「2013KHPF小此木杯PGタンデム大会」を企画しました。県連会員でない方も奮ってご参加ください。

◇開催日:2013年8月3日(土)

または8月4日(日)

◇開催場所:丹那エリア

(9:00~10:00タンナLDで受付)

◇パイロット参加資格:JHF-PGタンデム証を所有しフライヤー登録有効な者

◇パッセンジャー参加資格:小学生・女



性、体重30~65kgの方

◇参加費用:KHPF会員は3,000円+エリア使用料(タンナ会員無料)

KHPF会員以外は1,000円+3,000円+エリア使用料

パッセンジャーは保険料のみ1,000円

◇定員:15組(30名)

◇優勝賞金:10,000円+副賞

◇競技内容:2ヶ所のリボン投下+セツトタイム

◇必要なもの:JHFフライヤー登録証・PGタンデム技能証・県連証・小電力無線機・ロープ・鋸

◇申込締切:7月21日(日)

◇申込先:神奈川県 ハング・パラグライディング連盟事務局

〒259-0314 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上803-49

TEL&FAX.0465-63-1364

■2013年度事業報告と計画について

大阪府フライヤー連盟より

2013年パラグライディング世界選手権の日本代表に、大阪府在住の2選手

(成山基義、上山太郎)が選ばれ、大阪府連は二人の安全と活躍を願うとともに心ばかりの応援金を贈りました。

両選手から「この度は、大阪府連の貴重な予算から、応援金をいただきありがとうございました。今回は関西色の濃いメンバーなんで浪速のド根性で頑張ってきました。結果報告等は大阪府連のメーリングリストで、少しでも皆様に情報を発信したいと思っています」という言葉が届きました。

また、大阪府連としては、このような一部のトップパイロットだけでなく、できるだけ多くのフライヤーのためになる催しをすべきと考え、大阪の舞洲にて、フライヤーズミーティング(体験会、事故対策、各種講習会、勉強会)を計画中です。

他、大阪府の皆様の忌憚ない意見を出せる場として、大阪府フライヤー連盟のメーリングリストは開設続行中です。まだ、登録をされていない方は、ご連絡ください。

大阪府フライヤー連盟
理事長 片岡義夫

学連ニュース

7月に入って気温も湿度も高くなってきました。台風が来ることもあります、初心者からベテランまで楽しくフライトできる日も増えてきたのではないのでしょうか。

フライヤーの皆様、はじめまして。日本学生フライヤー連盟(JSFF)関東地区理事の上原征大(足尾山エリア 横浜国立大学3年)です。JSFF関東地区は茨城県にある足尾山と板敷山の二つのエリアからなっています。現在14大学が加盟しており、今年入部した1年生を含めると約100名が活動しています。今回は関東地区を中心に、今年度の新歓活動の報告をします。

積極的に新歓活動

4月は学生にとって最も重要な月です。各大学、様々なサークルや部活などの団体が新たな仲間を増やそうと懸命に新入生を勧誘します。我々学生フライヤーも同様に……いや、他のサークルよりも積極的に新歓活動を行いました。大学のサークル活動はハング・パラグライダー

ーの世界の最初の窓口として、仲間と一緒に気軽に楽しく続けていくきっかけになるからです。そのため日本全国、様々なイベントや方法で新歓活動を行い、足尾エリアでは大きなものでは二つの新歓イベントを行いました。合同説明会とゴールデンウィークの新入生合宿です。

まずハング・パラ体験

合同説明会は、足尾エリアの大学が合同で新入生向けにハング・パラグライダーの体験会を行うものです。毎年恒例となっており、今年度は特に天候に恵

まれ、グランドハンドリングとハンググライダーのスクーターターニングによる飛行体験は大成功に終わりました。テイクオフ見学では、好条件ということもあって



インストラクターが丁寧に合宿講習の説明を。



合同説明会でのグランドハンドリング体験。



合宿では上級生のサポートでみっちり練習を。

一般のフライヤーの皆様が大勢いらっ
しゃっており、迫力ある素晴らしいテイク
オフを間近で見せていただきました。離
陸の瞬間、新入生はみな歓声を上げ、
スカイスポーツへの憧れをより一層強め
ていたように思います。

山飛びに向けて合宿

5月のゴールデンウィークに行った合
同合宿は、新入生46名を含む85名の
大人数で開催できました。

ほとんどの新入生がこの合宿からス
クールに入校し、山飛びに向けて講習
を開始します。上級生のサポートの下、
機体の取り扱い方やグランドハンドリ
ングなどの基本を身に付けるべく、2日
間みっちり講習を行いました。

新入生の中には、すでに初めての山
からのソロフライトをした人もいます。こ
れからどんどん増えていくので、テイクオ
フなどで学生講習生を見かけたらどう
か温かい目で見守ってください。

JSFFではfacebookにてグルー
プページを作成し、活動の報告や学生連
盟の活動について発信しています。イ
ベントの告知や学生フライヤーの様子
が分かるので、facebookを利用され
ている方はぜひ一度ご覧になってくださ
い。よろしくお願いします。

<http://www.facebook.com/pages/日本学生フライヤー連盟/437234113030344>

JHFからのお知らせ

■デジタル簡易無線機の利用について

JHFは、ハンググライディングやパラグ
ライディングで使用する無線機として、
上空および陸上利用に割り当てられた

351MHz帯を使用するデ
ジタル簡易無線機の使用
を推奨しています。

この種類の無線機は、
電波法施行規則による簡
易無線局のデジタル化お
よび登録制度の導入に
基づき使われているもの
です。使用に際しては登
録手続きと開設届けのみ



が必要で、免許・資格は不要です。

デジタルなのでクリアな音質で聞き取
りやすく、5チャンネル、送信出力1W、
防塵・防水性を備えています。最近発
表された新型(VXD450S)では、緊急
アラーム機能やGPS位置情報取得に
対応できる機能もあります(近日発売さ
れる予定のGPSマイク使用の場合)。

JHF事務局では、販売代理店のご厚
意により借用している5台とJHF所有
の10台、計15台を用意して、会員の皆
様への貸し出しを受け付けています。

貸し出しをご希望の方は、JHFウェブ
サイトの「登録申請・各種用紙」にある

「デジタル無線機貸出依頼書」をダウ
ンロードして必要事項を記入のうえ、JHF
事務局宛にお送りください。

■PG教本基礎技術DVD頒布中

197号でお知らせした基礎技術
DVD「JHFパラグライディング教本基
礎技術」を頒布しています。

このDVDには、JHF教本のA・B級
からクロスカントリーまで各課程を修了
するために求められる基本的なフライト
技術について、ベテラン教員による模範
演技を収録しています。実際の飛行で
の操作を、複数の方向から近接撮影し

パラグライディング教本DVD第2弾「テイクオフとランディング」編集完成

DVD制作プロジェクトチーム 山谷 武繁

昨年の基礎技術編では、空中動作
の模範演技を中心に解説DVDを制
作しました。第2弾はパラグライダーの
基本となる「テイクオフ&ランディング」
について解説しています。

今回は基本となるライズアップ、テ
イクオフ、ランディングに加え、上達
のための応用編まで収録し、パイロット技能
証をお持ちの方にもレベルアップのため
に、ぜひ見ていただきたい内容とな
っています。

ライズアップに関しては、フロントライ
ザーを引いて立ち上げるのではなく、
グライダーを滑空させるために必要な
荷重をかけることを表現しています。こ
れは滑空の基本であり、テンションをキ
ープして揚力を感じることは、確実なグ
ライダーコントロールにつながります。
「揚力を感じる」ことを主眼に解説して
おり、これこそがライズアップ、グランド

ハンドリングの本質だと考え制作にあ
たりました。

特にDVDに収録している「ノーハン
ドライズアップ」は、基本を身につける
ために非常に効果のある練習方法で
す。他のDVDや教本にも紹介されて
いないテクニックですが、初心者から
パイロットまで、レベルアップのために有
効な練習方法になると思います。グ
ランドハンドリングが不得意な方でも、こ
の練習によって理想的な揚力、テンシ
ョン、グライダーの位置を知ることがで
き、通常の練習でもこのフィーリングに
近づけることが上達への近道になる
と思います。

また、冒頭からの15分は機材の説
明からショートフライトまでをわかりやす
く収めました。各スクールで、初心者体
験前に見せるビデオとして活用してい
ただけるとと思います。

基礎技術編とテイクオフ&ランディ
ング編の完成で、パラグライディング教本
の模範演技の映像化ができたと思い
ます。この教本DVDが日本のパラグ
ライダー界の安全の啓蒙、普及の一助
になれば幸いです。

今回のDVD制作にたくさんの方の
協力をいただきました。撮影用の機材
をお借りしたファルホークインターナシ
ョナル様、ヘリグライド様、エアカッシー
様、アウトバーン様。撮影映像を提供
いただいたスカイ朝霧様。DVD制作
の基本テクニックを学ばせていただい
た泉ヶ岳パラグライダースクール様。
DVD制作のために力添えいただいた
JHF事務局、理事の皆様。そして撮影
に参加いただいたプロジェクトチーム
の方々に、心より感謝いたします。
(入手方法については後日JHFウェブ
サイトでご案内します。)



たものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしろとブレーキコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

[収録されている実技]

1. 旋回 45度、90度、180度(教本32、64、65頁)
2. ピッチング(63、93頁)
3. ローリング(63、93頁)
4. リアライザーコントロール(94頁)
5. 両翼端折り(94、112頁)
6. フィギュアエイト(108頁)
7. 片翼潰し(111頁)
8. スパイラル(126頁)
9. Aストール・Bストール(126頁)

[価格・入手方法]

頒布価格は1枚1,500円(送料込)で、お申込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、スクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

また、パラグライディング教本DVD第2弾「テイクオフとランディング」の編集が完成しました。

収録メニューは……

- ・機材の取り扱いと準備
- ・フロントライズアップの基本
- ・直線飛行
- ・フロントライズアップ
- ・リバースライズアップ
- ・グランドハンドリング
- ・効果的なライズアップ練習
- ・テイクオフ
- ・8の字旋回からのランディング
- ・場周アプローチランディング

・ランディング

ただいま頒布の準備を進めていますので、もう少しお待ちください。

■JHFステッカーを販売しています

JHFロゴにハンググライダーとパラグライダーの画像を加えたものと、ロゴのみのステッカーの2種類あります(ステッカーデザイン:ボランティア堀江譲氏)。2種類1セットを製造原価とほぼ同額の送料込み500円でお送りします。

ご希望の方は、JHFフライヤー会員No./お名前/注文セット数/住所/連絡先電話番号/メールアドレスを、メール、FAX、郵便などでJHF事務局にご連絡ください。入金確認後発送しますので、JHFの口座にお振込みいただくか、50円または80円の郵便切手で金額分をお送りください。



■JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「フライヤーサポートデスク」→「登録申請・各種用紙」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件:消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ボロジメーター

パラグライダーキャノピー等のエア漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円/台。申込条件:ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無

線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。ご利用ください。国際航空連盟(FAI)もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

■住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ます。コンビニから送金の場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No./お名前/変更後のご住所/連絡先電話番号/メールアドレス

■各種お申込みやお問合せは

JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015

東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889

FAX.03-5834-2089

E-mail: info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、岡山県在住の方には岡山県ハンググライディング連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

JHFレポート202号

発行日:2013年(平成25年)7月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社美巧社